

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 地元テレビ局のアナウンサーとして活躍中の佐々木さん。担当するニュース番組のセットの前とあってにこやかながら引き締まった表情。「取材を受けるのって緊張しますね」と取材をする方がラクとアピール。

2 担当する夕方のニュース番組のワンシーン。パートナーの飯岳コメンテーターも山形大学出身。山大OB、OGの輝かしいツーショット。ニュースに山大的話題が登場すると「私たちの時代は～」といった話で盛り上がる。

3 佐々木さんのおしゃべり、表情をたくさんのモニターが捉える。一般の人にはあまり馴染みがないテレビの裏側。いい番組づくりのために、佐々木アナは周囲のスタッフといっしょに見えない所でもがんばっている。

普通の女子大生とは一線を画したバイト漬けの日々、 学業との両立に必死だったあの頃があるから今がある。

自立の成果

佐々木瞳 アナウンサー

学費だけで済むからと地元秋田の大学に進学するつもりでいた佐々木瞳さんが、山形大学を選んだのは、秋田大学に希望する人文系の学部学科がなかったから。人間の営みや文化、歴史などを学びたかったのだ。生活費は自分で稼ぐという条件を自ら申し出て両親を説得し、隣県の山形大学に進学。アルバイトと学業の両立を計るため、サークル、飲み会を楽しむ余裕などまったくなかった。それでも両親には心配をかけまいと、授業にはまじめに出席していた。

アナウンサーを志望する友人たちが大学に通いながらアナウンススクールなどに通っている中、佐々木さんは選挙のウグイス嬢など、「しゃべり」のバイトで収入を得ながら経験を積んで一石二鳥。人に伝える話

し方を実践で学び、アナウンサー業界に関する情報収集にも余念がなかった。しかし、それでもどこかで自分には無理との思いもあり、公務員への道も模索しはじめていたという。ちょうどその頃、「山形県でスポーツクリエイション祭」という全国的なイベントがあり、そのキャンペーンレディに応募し、20数倍の倍率を勝ち抜いて見事合格。自分にもチャンスはあるかもしれないという自信につながった。大学の就職担当者の薦めでフジテレビを記念受験したこともいい経験となった。サークルや飲み会に行く暇はなくても早朝から時間があり、毎日、盃山に登った。そこで先輩の友達がたくさんできて山形のいいところや温かさにとっぷり触れた。周囲の学生たちとはまったく別次

元で大学生活をエンジョイしたとも言える。そんな忙しくも充実した日々を送る中、すっかり山形が好きになってしまった佐々木さんは、山形での就職を希望。持ち前の元氣と普通の女子大生とはひと味違ったアピール力で現在の局アナの座を射止めたのだった。本当は、テレビユー山形のアナウンサーは県内出身者とされていたのだが、佐々木さんの場合は山形大学卒業ということで準山形県出身者と認められたようだ。新学期には大学で「山大ライフを創ろう！—先輩は教科書—」というタイトルの講義があり、その1回分を担当することになっている。明るく飾らない人柄が魅力の人気アナウンサーの講義となれば、教室は受講を希望する後輩たちでいっぱいになるに違いない。